

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和07年08月21日

計画の名称	茨城・栃木交流圏域における魅力的な資源を活かした広域的観光周遊活性化計画											
計画の期間	平成31年度～令和05年度(5年間)											
交付対象	重点配分対象の該当											
計画の目標	茨城栃木交流圏域(茨城県西部、栃木県東部)においては、首都圏広域地方計画「F I T 広域対流圏の強化プロジェクト」に取り組むなど、観光振興による観光入込客の増加を図るための事業を展開している。 「F I T 広域対流圏の強化プロジェクト」では文化、歴史、自然環境等の魅力的な地域資源を活用した地域づくりを支援する事業を推進しており、茨城県においては日本でも有数の高さから大自然に飛び込むことができる竜神大吊橋パンジージャンプなど、栃木県では平成28年にユネスコ無形文化遺産に登録された那須烏山市の「烏山の山あけ行事」のほか、益子町の益子焼き体験など、観光コンテンツを活用した広域観光周遊ルートの創出を目的としている。特に、2019年には茨城国体、翌2020年に東京オリンピック・パラリンピック競技大会、さらに2022年にはとちぎ国体が開催されることからインバウンド観光に向けてプロジェクトを推進する必要があり、茨城県においては、県北地域と北関東道沿線を中心とし、栃木県からのアクセス性の向上に資するインフラの整備、栃木県では那須烏山市、益子町を中心とした茨城県との観光周遊に連携するインフラの整備を推進する。											
全体事業費(百万円)	合計(A+B+C+D)	4,890	A	4,890	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C/(A+B+C+D)	0%

番号	計画の成果目標(定量的指標)				定量的指標の現況値及び目標値			
	定量的指標の定義及び算定式				当初現況値	中間目標値	最終目標値	
					H29		R5末	
1	【茨城県・栃木県 共通目標】 観光入込客数402万人(H29)から468万人(R5)に増加 (66万人(16.4%)の増加)							
	【茨城県・栃木県・共通目標】 観光入込客数 (観光入込客数の増加割合) = (評価時点の年間観光入込客数 - H29の年間観光入込客数) / (H29の年間観光入込客数)				402万人	万人	468万人	
2	【茨城県 単独目標】 観光入込客数263万人(H29)から288万人(R5)に増加 (23万人(9.4%)の増加)							
	【茨城県 単独目標】 観光入込客数 (観光入込客数の増加割合) = (評価時点の年間観光入込客数 - H29の年間観光入込客数) / (H29の年間観光入込客数)				263万人	万人	288万人	

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靭化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-

A 基幹事業																			
基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名 / 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用便益比	個別施設計画 策定状況
		一體的に実施することにより期待される効果										H31	R02	R03	R04	R05			
		備考																	
広域連携事業	A11-001	道路	一般	茨城県	直接	茨城県	国道	改築	(国)118号山方拡幅	現道拡幅 L=0.3km	常陸大宮市						600		-
	A11-002	道路	一般	茨城県	直接	茨城県	国道	改築	(国)123号 御前山BP	バイパス整備 L=0.6km	常陸大宮市						400		-
	A11-003	道路	一般	茨城県	直接	茨城県	都道府県道	改築	(主)常陸太田大子線	現道拡幅 L=0.3km	常陸太田市						250		-
	A11-004	道路	一般	茨城県	直接	茨城県	都道府県道	改築	(一)山方水府線	現道拡幅 L=4.0km	常陸大宮市						200		-
	A11-005	道路	一般	茨城県	直接	茨城県	都道府県道	改築	(一)諸沢西金停車場線	現道拡幅 L=0.1km	常陸大宮市						240		-
	A11-006	道路	一般	茨城県	直接	茨城県	都道府県道	改築	(一)那珂湊大洗線	現道拡幅 L=0.5km	大洗町						500		-
	A11-007	道路	一般	茨城県	直接	茨城県	都道府県道	改築	(一)門井山方線	現道拡幅 L=0.6km	常陸大宮市						750		-

A 基幹事業																			
基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名 / 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用便益比	個別施設計画 策定状況
		一體的に実施することにより期待される効果											H31	R02	R03	R04	R05		
		備考																	
広域連携事業	A11-008	道路	一般	茨城県	直接	茨城県	都道府	改築	(一)富谷稻田線	現道拡幅 L=2.2km	笠間市						500		-
	A11-009	道路	一般	茨城県	直接	茨城県	都道府	改築	(一)稻田友部線	バイパス整備 L=0.7km	笠間市						500		-
		H31年度より事業実施。R4年度よりFIT広域対流圏強化による広域的観光活性化計画(重点)へ変更																	
	A11-010	道路	一般	茨城県	直接	茨城県	都道府	改築	(主)明野間々田線	現道拡幅 L=0.4km	筑西市						300		-
	A11-011	道路	一般	茨城県	直接	茨城県	都道府	改築	(主)内原塩崎線	現道拡幅 L=1.3km	水戸市森戸町						650		-
		H31年度より事業実施。R4年度よりFIT広域対流圏強化による広域的観光活性化計画(重点)へ変更																	
												小計					4,890		
												合計					4,890		

事後評価	
事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
土木部道路建設課にて評価を実施。	令和07年7月
公表の方法	
茨城県ホームページで公表	
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	<p>道路整備等を行うことで、観光地へのアクセス性が向上し、広域観光の活性化に寄与したと考えられる。</p> <p>【本事業完成で発現される効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A11-002：(国)123号のバイパス整備により、栃木県益子町方面から拠点施設「道の駅かつら」までのアクセス時間が2分短縮され、周遊効率性の向上が図られた。 ・A11-006：(一)那珂湊大洗線の拡幅整備により、栃木県方面からのアクセス道路である東水戸道路のひたちなかICから本県の拠点施設「アクアワールド大洗」までのアクセス時間が3分短縮され、周遊効率性が増したことにより、施設への入込客数が増加した。 ・A11-011：(主)明野間々田線の交差点整備により、右折滞留車による渋滞が緩和され、栃木県益子町方面から拠点施設「宮山ふれあいふるさと公園」までのアクセス時間が2分短縮され、周遊効率性の向上が図られた。
定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況（必要に応じて記述）	<ul style="list-style-type: none"> ・A11-002：(国)123号のバイパス整備により、大型車等の交通がバイパスへ転換され、常陸大宮市野口地域の安全な生活空間が確保された。
特記事項（今後の方針等）	
未完成の事業については、本計画完了後も引き続き、社会資本整備総合交付金等を活用し、計画的に事業を推進する。 (未完成事業) A11-001、A11-003～005、A11-007～009、A11-011	

目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因	
1	最終目標値	468万人	道路整備事業等により拠点施設へのアクセス性が向上し、観光入込客数は上昇したが、最終目標値に対して413万人（88%）となり、目標値を達成することができなかった。要因としては、令和5年5月に新型コロナウイルスが5類へと移行し、全体として観光入込客数は回復傾向にあるものの、目標達成には至らなかった。【茨城県・栃木県】出典「観光客動態調査」など
	最終実績値	413万人	
2	最終目標値	288万人	茨城県県北地域・県央地域・県西地域の拠点施設における観光客数は、令和元年度から令和3年度にかけては下落傾向が続き、令和4年度・令和5年度と上昇に転じたが、最終目標値に対して252万人（88%）となり、目標値を達成することが出来なかった。要因としては、令和5年5月に新型コロナウイルスが5類へと移行し、全体として観光入込客数は回復傾向にあるものの、人流が抑制されていた影響が残ったため目標達成には至らなかった。【茨城県】出典「観光客動態調査」（茨城県）
	最終実績値	252万人	